

預かり保育の在り方についての一考察 (3)

— コーナー保育の方法的特性の視点から —

恒岡 宗司

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

A Study of the Children's Care after the Hours (3) — From the Viewpoint of the Childcare and Education Using Corner Plays —

Munechika Tsuneoka

Naragakuen University Narabunka Women's College

幼稚園における預かり保育の実施状況は、平成24年度文部科学省の幼児教育実態調査¹⁾によると、公立59.7% (2,769園)、私立94.2% (7,454園)、合計81.4% (10,223園)の実施率となっている。幼稚園教育要領には「幼稚園教育の基本を踏まえ実施すること」など、一定の留意事項が示されているものの、教育活動としての内容と方法については各園の創意工夫に委ねられており、同質とは言い難い現状がみられる。

本稿は、継続研究として方法論の視点からのアプローチを試みた。特にコーナー保育の方法的特性に着目し、預かり保育に導入した場合の有用性について、保育の「連続性」の確保と幼児期に育成すべき「社会性」をキーワードとして考察する。

キーワード：コーナー保育、連続性、社会性、ヘレン・パーカスト、倉橋惣三

1. はじめに

本研究の目的は、預かり保育（本稿では「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」を指す。）の在り方について、幼児にとって4時間を超える教育活動として適切なものとなるよう、方法的側面から検討することである。また本研究での預かり保育については、主として教育時間終了後の教育活動を想定しており、目的についての筆者の基本的な考えは、幼稚園の特性を生かした家庭教育の補完機能を発揮するとともに、遊びを通して社会性の基礎、特に協同性の基礎を育てていくことを柱として位置付けている。当初の研究動機は、「預かり保育におけるコーナー設定による保育方法・保育形態の導入は、幼稚園の特性を生かした教育活動として成立し、親の子育て支援に寄与できるのではないか。」という問題意識の解明にあった。特に幼稚園教育要領総則²⁾においては、幼稚園教育は「環境を通して行うものであること」を基本とし、特に方法論として「計画的に環境を構成」や「物的・空間的環境を構成」などの重視すべき事項が示されている。

恒岡 宗司 〒631-8523 奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

そこで、研究仮説として「預かり保育ではコーナー保育の方法・形態を導入することにより、環境構成として家庭的な雰囲気をつくり出し、幼児が自由に選択できるコーナーでの遊びを通して社会性の基礎を育んでいくことができるのではないか。」と設定した。すなわち、筆者が考えるコーナー保育の方法的特性とは、コーナー設定による環境構成を保育形態として、またコーナーでの遊びを保育方法としてとらえている。

コーナー保育については、一般的に自由保育を尊重する理念的な次元でのとらえ方と自由遊びに代表される保育方法・保育形態としての次元でのとらえ方がみられる。筆者の預かり保育研究の基本構想では、コーナー保育のもつ方法・形態に着目し、その方法的特性が預かり保育のねらいや内容に照らしてどのような有用性を見いだせるかを検討するものである。その着目点として、保育の内容及び方法面からは「連続性への配慮」を、目的・ねらい面からは「社会性の基礎の育成」を重視した。ただし、実際の預かり保育では、幼稚園の個別の事情やその日の幼児の参加状況・人数等の変動があったり、預かり保育のすべての時間帯でコーナーでの遊びが行われたり、一部分の時間帯で行われたりするなどの場合もあることを考慮していく必要がある。

教育課程に係る教育時間中の通常教育活動（本稿では預かり保育に対して「通常の保育」と表記する。）での保育方法・保育形態についての全国的な調査統計資料は不明であるが、園全体でコーナー保育を保育理念として掲げ教育を行っている幼稚園は、ごく少数にとどまるのではないかと推察している。しかし、環境構成としてコーナー設定による保育形態を取り入れ、コーナーでの遊びを保育方法として指導している教師や幼稚園はごく一般的にみられるのではないだろうか。そのため預かり保育においてコーナー保育の方法的特性を意識した教育活動の展開は、教師の心理的な抵抗感や困難性を減らせるメリットがあると考えられる。

2. 研究の視点と方法

預かり保育では、通常の保育との連続性の確保に留意して実施していくことがまず求められている。筆者が考える連続性の具体とは、遊びや生活面からみた家庭・地域と幼稚園との連続性、教育課程からみた連続性、通常の保育から預かり保育への園生活の連続性、幼児の発達からみた遊びの質の連続性、通常の保育と預かり保育での人間関係の連続性などを主に想定している。

本研究では、これらのうち主に家庭と幼稚園での遊びの連続性と教育課程からみた連続性の観点から、コーナー保育にみられる方法的特性の有用性について検討していきたい。その理由は、今日の家庭ではきょうだい数の少ない家族構成が一般的であり、コーナー保育は家庭で自分の好きな遊びをして過ごしている実態に少しでも近い環境をつくり出せるのではないかと考えたからである。ただし、家庭での遊びと預かり保育での遊びに連続性をもたせることについては、遊びの質や種類を同じにすることを意味するものではない。

預かり保育では何よりも幼児が自由に遊びを選択できる環境設定を工夫し、幼児の遊びに対する関心や意欲に連続性をもたせることが必要であると考えられる。その上で自園の目標・方針、教育課程との連続

性を図るため、遊びを通して社会性の基礎を育んでいくことを共通のねらいとして位置付けられているかを確認していくことが大切である。

研究仮説として前述したように、社会性の育成については、幼児期にはその基礎を育む場としてコーナー設定による保育方法・保育形態を取り入れた環境構成が適しているのではないかと考えている。その理由は、同じコーナーを選択したことによって幼児同士が遊びの中で協同性を育んでいくことができるからである。特に社会性の基礎の中核として協同性を位置付けているのは、家庭では達成しにくい資質であり幼稚園教育が家庭教育の補完機能を果たしていくことにつながるの考えによるものである。

社会性の基礎の育成については、奈良県教育委員会が平成14年度に奈良県幼児教育在り方検討委員会を設置し、平成15年に幼稚園用指導資料として「社会性の基礎をはぐくむ～事例から考える保育の視点～」³⁾を作成・発行している。同指導資料では、一人から集団へと協同的な遊びの要素が増えてくる発達過程での幼児の社会性の基礎を育む視点として、特に次の7項目を取り上げている。すなわち、「自己表現」、「他者理解・関心」、「自尊感情」、「集団参加」、「共感」、「期待感」、「自己抑制」である。社会性の基礎については多面的にとらえていく必要があるが、本研究では筆者も同指導資料作成に参画したことから、幼児の協同的な遊びの姿からみえてくる上記7項目を参考にして、預かり保育の在り方を考えていく際の基本的な要素として位置付けた。

「連続性」と「社会性」をキーワードとして預かり保育とコーナー保育との具体的な接点を探っていくためには、これら二者の相互関連にも留意しながら、「連続性」に関しては、次の①～④の視点から検討し考察していくこととした。

- ① 預かり保育の教育課程に係る教育時間外への位置付けについては、校種を超えた教育課程の制度全体からみていく必要がある。幼稚園の教育活動としての連続性を保障する観点から、中学校部活動が参考となる。そのため、中学校学習指導要領における部活動の位置付けと取扱いについて預かり保育の視点から考察する。
- ② 通常の保育と預かり保育では異なる人間関係の中で幼児が生活する実態を踏まえ、人間関係の連続性の観点から小学校クラブ活動が参考となる。特に遊びの自由選択を最大限に生かすコーナー保育の方法的特性は預かり保育にとって重要となることから、小学生がクラブを選択して活動する形態との類似性について考察する。
- ③ 家庭や地域での遊びと幼稚園での遊びの連続性については、幼児の発達過程からみた遊びの質の連続性を踏まえながら家庭と緊密な連携を図っていくことが大切であり、幼稚園教育要領及び同解説に示された留意事項を十分に理解しておく必要がある。そのためには同要領・解説における預かり保育の取扱い及び留意事項について、コーナー保育のもつ方法的特性の視点から考察する。
- ④ コーナー保育のもつ方法的特性は家庭教育の補完機能を果たしていけるかどうかの観点から、親の我が子への適切な関わり方を学び、子育ての視野を広げることができる可能性について考察する。「社会性」に関しては、次の⑤、⑥の視点から検討し考察していくこととした。
- ⑤ 幼稚園教育要領第3章に示された指導計画の作成に当たっての留意事項として、「具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようになること。」⁴⁾と、教師の工夫が求められていることから、コーナー設定による保育形態に着目した

環境構成の在り方について考察する。

- ⑥ コーナーでの遊びが、幼児に社会性の基礎を育成する上で有用性を見いだすことができる保育方法であることについて考察する。

実地調査については、インターネット検索を通じてコーナー保育の理念や方法を積極的に園経営に位置付けている名鉄学園豊田花園幼稚園（愛知県豊田市）と一隈学園木の実幼稚園（群馬県前橋市）を実地調査園として選定し、保育参観及び研究内容を聞かせていただくことにした。さらに、四恩学園ナザレ幼稚園（神奈川県横浜市）と鳥取大学附属幼稚園（鳥取県鳥取市）も訪問させていただき、預かり保育やコーナー保育の実践についての話をうかがう計画を立てた。

3. 研究の視点からみた内容分析

3.1 研究の視点①、②から — 預かり保育の教育課程に係る教育時間外への位置付けについて —

筆者は預かり保育の在り方を考えていく際に、参考例として小学校クラブ活動と中学校部活動に着目した。目標設定の観点からは小学校クラブ活動に類似性がみられ、教育課程の観点からは教育課程外の教育活動である点において中学校部活動に共通性がみられると考えたからである。

まず小学校クラブ活動や中学校部活動が預かり保育と共通することの第一は、1日の学校生活の中で児童生徒が通常の学級集団とは異なる集団に属して活動する形態に似ていることが挙げられる。つまり1日の教育活動の中で人的環境として人間関係が変化することである。第二に、教育環境として一般的には所属学級とは異なる場所で活動するという物的環境が変化することである。これらのことを前提として、預かり保育では「1日の流れや環境を工夫すること」⁵⁾に配慮しつつ、幼児が安心して居場所を見だし主体的かつ自由に時間を過ごせる環境構成が大切である。

また、中学校学習指導要領第1章総則には、部活動について「(13) 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」⁶⁾（下線は筆者による）と規定されている。

これらのことから預かり保育の充実を図っていく上で検討が望まれる点は、中学校部活動の教育課程上の位置付けのように、幼稚園教育要領総則の中に「幼稚園としての教育活動の一環として」との認識が明文化されることが必要ではないだろうか。その際、小学校で行われているクラブ活動も参考にした。

平成20年に告示された小学校学習指導要領第6章「特別活動」のクラブ活動には、「1目標 クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。」とある。また、「2 内容 学年や学級の所属を離れ、主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追求する活動を行うこと。」⁷⁾（下線は筆者による）とある。ただし

留意すべき点として、クラブ活動は教育課程内の特別活動を構成する一つに位置付けられており、制度的な位置付けとしてみた場合には預かり保育とは異なる。しかし、自園の教育活動として幼児の1日の園生活の連続性を図るという観点からは極めて類似している。なぜなら、コーナー保育には遊びの種類や遊び方を園児が自由に選択できるという特性がみられ、児童がクラブを選択する点において共通性を認めることができるからである。

次に、クラブ活動の目標及び内容の観点から預かり保育をみると、社会性の基礎の育成に共通性が認められることから、特に協同性の基礎を育むことを預かり保育の基本的性格とすることは妥当性があると考えられる。そしてコーナー保育の方法的特性を生かすことによって、幼児期にふさわしい「人間関係」、「集団の一員」、「自主的、実践的な態度」、「異年齢集団の交流」、「共通の興味・関心」をキーワードとした協同性の態度形成が預かり保育の場でも育まれるものと考えられる。このような協同性の基礎となる態度形成の芽生えは、家庭生活の中では十分に培われにくく、幼稚園が積極的に家庭教育を補完していける内容である。そのため預かり保育の内容についても、教育課程の5領域のねらいや内容とも十分に連続性を図り、教育活動としての質的向上を目指して幼稚園全体で指導計画を作成していくことが大切である。

3.2 研究の視点③、④から - 幼稚園教育要領・同解説における預かり保育の基本的な考え方について -

筆者は、幼稚園教育要領第3章「指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項第2 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」に書かれている内容について、同解説での記載内容⁸⁾をもとにコーナー保育の方法的特性に通じると考えられる事項を整理し、検討していくこととした。なお、同解説から読み取った事項についてはゴシック体で表記した。

ア 幼児の心身の負担に配慮すること。・・・幼児の健康と安全を確保した環境づくり／1日の流れや環境を工夫／家庭生活との連続性を図ること／幼児一人一人の実情に合った居場所づくり／必要に応じた午睡の時間の設定／くつろげる場の設定

コーナー設定による保育形態の利用が可能である。保育における養護面に十分留意しながら、特に社会性の基礎の前提となる「幼児一人一人の実情に合った居場所づくり」を大切にしたい。保育室内に設定されたコーナーは、幼児にとって自分の居場所をイメージしやすい。またコーナーを選択する幼児の自由を尊重していくこともできると考えられる。この点については、保育所保育指針解説書には「②子ども自らが関わる環境」の項で、「複数の友達と遊べる遊具やコーナーなどを設定するとともに、保育所内外の物の配置や子どもの動線などに配慮した保育の環境づくりが必要です。」⁹⁾と示されている。長時間保育を実施している保育所には、保育室が幼児にとって「温かな親しみとくつろぎの場となる」¹⁰⁾よう努めてきた豊かな経験知があることから、預かり保育の在り方を養護面から考えていく上での参考としたい。

イ 教育課程に基づく活動を考慮し、幼児期にふさわしい無理のないものとなるようにすること。・・・教育課程に係る教育時間中の幼児の過ごし方に配慮／室内での遊びと戸外での遊びの組合せ／夢中になって遊んでいた場合には同じ遊びを継続／充実した無理のない1日の流れをつくり出すこと

幼児が遊びを自由かつ自主的に選択している姿は家庭で過ごす時間でもみられるが、預かり保育には家庭で補いきれない他児とのかかわり体験があり、社会性の基礎を自ずから体得していく機会になって

いる。コーナーには同じ遊びの目的をもった幼児が集まっている場合が多いことから、教師はコーナー設定による保育方法を取り入れるという考え方に立つことができる。各コーナーでは会話を交えながら遊びが展開され、遊びのアイデアや遊び方のルール作りなど、特に年長児では協同的な遊びに発展させようとする意識が心の中に芽生えていくことが期待できる。

ウ 教育課程に基づく活動を担当する教師と緊密な連携を図るようにすること。・・・活動内容や心と体の健康状態についての引き継ぎ／教育活動の計画の作成での連携

預かり保育の目的の一つとしたい社会性の基礎の育成については、ほとんどの幼稚園で教育目標に位置付けられている場合が多いことから、園としての教育活動の計画段階において通常の保育と預かり保育との連携が可能になる。特に長期指導計画作成に当たっては、ねらい等の共通化・共有化に努めたい。また、コーナー保育の特性の一つである遊びの選択の自由が幼児に委ねられていることから、預かり保育担当者は一人一人の幼児の観察を通して、そのコーナーを選択した気持ちをくみ取り尊重していく指導姿勢が大切である。

そして、学級担任と預かり保育担当者との連携については、幼児がどのコーナーで遊んでいたかをなるべく個別に記録に残し、それを学級担任が確認することにより、遊びの連続性に配慮した保育が展開しやすくなると考えられる。この点については、倉橋惣三が論じている「銘々仕事表」（後述する）の考え方を生かしたい。

エ 家庭や地域での幼児の生活を考慮すること。・・・おやつや午睡など落ち着いた家庭的な雰囲気の中でゆったり過ごせるようにすること／異年齢の子どもとの遊び、高齢者など地域の人々との交流、地域の行事に参加するなどの多様な体験

現代の家庭はそのありようや価値観が多様化している中で、「家庭的な雰囲気」というものについて一様にとらえることはできない。本稿では、多くの人々が一般的にイメージしていると思われる家庭の姿で論じていくことにしたい。預かり保育で求められる家庭的な雰囲気は、コーナー設定による保育形態を利用することで実現できるのではないかと考える。コーナー保育の場合、コーナーごとに預かり保育担当者が配置されていることが一人一人の遊びの様子を把握していく上では理想であるが、財政上の現実的な問題として人的配置にあまり多くを期待することは難しい。

この点については、筆者が訪問した鳥取大学附属幼稚園の実践が大いに参考となる。「わくわくひろば」と名付けられた同園の預かり保育では、「家庭的な雰囲気づくり」を大切にしており、降園時にわくわくひろばに移動してくる幼児を「ただいま」「おかえり」のあいさつで迎えていることも配慮の一つである。福田美紀氏は、鳥取大学の卒業論文作成においてわくわくひろばのコーナー設定に参画し、幼児がくつろげるコーナー設定を中心とした保育実践記録を卒業論文¹¹⁾としてまとめている。筆者は論文コピーを読ませていただき、同大学附属幼稚園のコーナー設定の経緯について詳しく知ることができた。また、同園の「附幼だより第523号」には、預かり保育担当の横山昌子先生が書かれた「こんにちは、わくわくひろばです。」¹²⁾が掲載されていたので、その一部を抜粋して引用する。

「わくわくひろばでは、自由保育の中で思いっきり体を動かし遊んで帰ってきた子どもたちが、家に帰ってゆったりとくつろいでいるような気持ちで過ごせるよう、家庭的な雰囲気づくりを大切にしています。……今年度（筆者注：2013年度）から導入した『くつろぎコーナー』です。部屋の隅っ

ここにカーペットを敷き、いくつかのクッションやタオルケットを置いて、子どもたちをリラックスできる状態に誘います。友だちの様子を見ながら、自分のタイミングでくつろげるので、疲れたり眠くなったりすると自分からコーナーへ行きます。そこでは、寝ころがりながら、絵本を読んだりくつろいだりする姿が見られるようになりました。……」

「家庭的な雰囲気やくつろぐこととはどういうことか」という教師の問いに対する答えは、椅子に座るのではなく直接床に座ったり寝転んだりすることを好む幼児の姿ではないだろうか、同園訪問時に横山先生の話がうかがいながら筆者には思えた。そのためのカーペットやクッション、タオルケットなどごく一般的に家庭で見られる物を置いたことが、幼児にとって大きな意味をもった環境構成になったと考えられる。

保育室をいくつかのコーナーとして設定する場合、コーナーごとにパーティションを設けることは必要条件とはならないが、静かな雰囲気が求められる午睡コーナーを設ける等の場合には大人でも幼児でも立ち上がれば見渡せる程度の高さに止めたい。筆者が訪問した各幼稚園でもコーナー保育を参観させてもらったが、幼児は遊びに没頭している時には周囲の友達遊びに関心が向くという姿はほとんど見られなかった。コーナー設定に際しては、人間関係的にも空間的にも開かれたものとなり、さらには援助しやすい保育方法となるように工夫したい。また、あまり広すぎないコーナーを設定した方が家庭の1部屋規模に近くなり、自分又は小グループでの遊びの世界をつくり出すことが容易になりやすいと考えられる。

第三者が参加する預かり保育の観点からは、定期的でなくても各コーナーでの遊びに適した地域の人々をボランティアとして参加してもらえよう工夫が大切である。理想を言えば、預かり保育の場が特に昔遊びなど高齢者の人生経験が生きるコーナーとして設定され、幼児と高齢者の交流が深められる場として位置付けられていくことによって、核家族の中で生活している幼児に育つべき社会性の範疇が広がっていく機会にもなると考えられる。

オ 地域の様々な資源を活用しつつ、多様な体験ができるようにすること。・・・地域の育児経験者の協力／公園や図書館などの施設の利用／希望日数や希望時間が異なることを考慮

幼児に遊びの選択が自由に保障されたコーナー保育では、環境構成としてのコーナー設定が重要となる。コーナーは幼児だけでなく不定期に参加した保護者や地域の人にとっても、そこに置かれた様々な物を通して遊びの意図や幼児の願いが理解しやすく、関わり方に対する不安等が少なくなるものと考えられる。

また、子育て支援の観点からコーナー設定をみれば、預かり保育を通して地域内の人的交流が図れ、子育てに悩む親にとっては、教師以外にも子育て経験のある相談相手ができる機会となり、孤立感の払拭にもつながると考えられる。

カ 家庭との緊密な連携を図るため、情報交換の機会を設けたりするなど、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすること。・・・家庭での過ごし方や幼稚園での状態の情報交換／家庭の教育力を損なわないこと／保護者に預かり保育の趣旨、家庭での教育の重要性を理解してもらうこと／幼稚園と共に幼児を育てるという保護者の意識を高めること／家庭での教育が充実するよう家庭への働き掛け／預かり保育の様子を知ること／保護者が参加する機会の提供／幼児との関わり方についての理解を深めること

本事項は、筆者が考える預かり保育の目的の一つである家庭教育の補完機能に深く関わっている。すなわ

ち、コーナー保育の方法的特性を生かす保育方法・保育形態を取り入れることによって、親の保育参加がしやすくなる。いつでも、どのような場面からでも遊びの輪に入っていきやすく、我が子と周囲の仲間とのこれまでの遊びやこれからしたい遊びなど、継続性や意図・目的も読み取りやすくなると考えられる。

特別に設定した保育参加の機会は別として、ふだん我が子を迎えに来た際にたとえわずかな時間でも一緒に遊ぶ中で、コーナーで遊ぶ我が子を介した親と教師との会話が生まれることも期待したい。また、親にとっても我が子と家庭で過ごす際の声掛けなどのタイミングや程度、内容などについても預かり保育担当者の言動を通して直接的に学ぶ機会になるものと考えられる。

キ 地域の実態や保護者の事情を踏まえること。・・・日数や降園時間等について、保護者の要請に応えられる弾力的な運用

一般的に幼稚園では、教師は幼児との対話や幼児同士の会話を通してその子の家庭の事情等、様々な情報を知る。教師はプライバシー保護やその子にとっての最善の利益を考慮していくことが前提であり、特に養護面に留意しながら各家庭の実情に即した関わり方をしていくことが大切である。また預かり保育は、親の要請によるものであり、利用するすべての幼児が望んでいるとは限らないことにも留意しなければならない。特に年度当初の頃には、通常の保育が終わって親と一緒に降園していく他児の姿を見ている幼児にとって、自分が預かり保育利用児として居残っているということが十分に理解できていないことが想定される。そうした幼児の内面的な心情にも教師は心を配っていくことが大切である。

この点については、親が迎えに来る時刻までの幼児の心の安定を第一に考えた関わり方を考えていく必要がある。また、親との話し合いを通じて、我が子にどういった説明と納得がなされているのかを幼稚園として確かめておくなど、幼児の発達段階や受入開始時期を踏まえながら家庭との緊密な連携を図りたい。

ク 幼児の生活のリズムを踏まえること。・・・夕食や就寝時間が遅れたりしないような活動時間の設定

パーティションのない大きな保育室では、コーナーの一つにぜひ午睡も含めたくつろげる場所としてのスペースを確保したい。もっとも各幼稚園の施設・設備の制約がある中で、一つの保育室をコーナー設定による保育形態を取り入れることによって、遊びの目的別にいくつかのスペースを作り出すことが可能となる。幼児は一つのコーナーで心ゆくまで遊び、遊び疲れたら隣のコーナーで横になってくつろぐなど、一人一人の生活リズムに合わせてコーナーを選択していくことができる。前述した鳥取大学附属幼稚園では、コーナー設定による保育形態上のメリットの一つと考えて、幼児がくつろげる場を柔軟かつ中心的に設定している。預かり保育の在り方を工夫していく上で大いに参考となるものである。

ケ 適切な指導体制を整備すること。・・・担当者の日ごとや週ごとの交代方法、一定の者を担当者として決める方法、これら両者の組合せなどの体制整備

預かり保育では家庭教育を補完する機能を発揮するために、通常の保育での学級担任と預かり保育担当との連携を密にしていかなければならない。そのためには幼児の遊びの様子を記録し、学級担任と預かり保育担当との間での確実な引き継ぎ体制を構築しておく必要がある。その日の預かり保育利用児が自由に遊んでいた姿を一人一人について逐一記録しておくことは、預かり保育時間中の幼児との関わりの中では不可能に近いが、幼児がどのコーナーを選択して遊んでいたかを確認しておくことは記憶に残りやすい。

こうした点からもコーナー保育の方法的特性を生かすことによって、預かり保育を担当する者に過度の負担とならない形での記録方法が模索しやすくなる。そのための一つの手がかりとして、倉橋惣三が言う「その子その子の生活時間割」（後述する）という発想を取り入れた記録方法を工夫し開発していくことにより、記録機能の充実と記録体制の整備を図っていけないのではないかと考える。

コ 幼稚園の教師の責任と指導の下に行うこと。・・・幼稚園教諭免許を有する者の責任と指導の下で行うこと／教育活動として適切な活動となるようにすること／幼稚園全体の教師間の協力体制の整備

何の制約も受けない自由な遊びという観点からみれば、コーナー設定は幼児の遊びに対する意思が全くの自由とはならない反面、遊びに使われる材料や用具を十分に準備しておくことで教育活動としての質の保障につながる。筆者は、コーナー保育の方法的特性を生かした預かり保育の姿として、親が迎えに来るまでの午後の一定時間を幼児が無目的に過ごすことがみられない状況を描いている。

子育て支援を軸とした社会の要請は、幼稚園に対しても変化を求めている。認定こども園の拡充が施策として進行している状況を見据え、幼稚園として今後預かり保育の充実を図っていくためには、幼児に対する養護面への一定の配慮をしながら教育活動としての基本姿勢をもつことが大切である。その根幹をなすものが、我が国の幼稚園が明治期から歩んできた歴史であり、預かり保育も幼稚園の特性を生かした教育活動であると認識して展開していくことが重要であると考えられる。

預かり保育を実施する上での留意事項としてまとめた前述のア～コのうち、特にア、イ、エはコーナー保育の方法的特性を生かすことにより社会性の基礎を育成するための教育効果が見込める。また、オ、カは家庭教育を補完する上で留意すべきことがらである。預かり保育の指導計画作成に当たっては、めあて、環境構成と指導援助などの項目について、コーナー設定の観点から具体的に検討していくことが実際の保育をイメージしやすいのではないかと考えられる。

以上の点が、コーナー保育の方法的特性を生かす観点から幼稚園教育要領及び同解説に書かれた預かり保育についての内容を検討したことがらである。今後、幼稚園での預かり保育実践を通して、コーナー設定による保育方法・保育形態の有用性等について具体的に検証していくことが必要である。筆者は、預かり保育が幼稚園としての教育活動であるとの認識に立脚して、社会性の基礎の育成、家庭教育の補完、保育方法・保育形態の観点から、次の(1)～(3)にまとめることとする。

- (1) 預かり保育実施上の目的として位置付けたい社会性の基礎の育成については、幼児にとって選択の自由が高いコーナーでの遊びを設定することによって実現の可能性が大きくなると考えられる。その際、配慮点として幼児とともにコーナー設定や遊びの内容を変更していく柔軟性をもち合わせておくことが大切である。特に年長児では協同的な遊びを推奨していくことによって、開かれた人間関係を築いていく力を高めていくことにもつながる。
- (2) 幼稚園として家庭教育の補完機能を果たすことについては、預かり保育においても一定の役割を果たしていくことができる。親の子育て支援につながる具体例として、具体的には遊びを通じた幼児の発達についての理解、幼児の心を育てるための言葉掛けの仕方、生活習慣や社会的ルールやマナーについて幼児自らが気づき身に付けていくプロセスの理解、また親自身が抱きやすい他児との比較による優越感や劣等感の払拭などが考えられる。

(3) コーナー設定による保育方法・保育形態については、その特性として幼児が遊びに対して主体的かつ自由に選択でき、併せて心身ともにくつろげる場も設定しやすいメリットが挙げられる。一方、親にとっては、保育意図や我が子の興味・関心をもった遊びの対象が見えやすいことから、その場の保育の様子や我が子の姿を通して適切な言葉掛けなどができる。そして、通常の保育での一斉降園とは異なることから、我が子を迎えに来た際に預かり保育担当者と短時間でも会話ができることによって互いの信頼関係を築き、幼稚園として保育相談等の役割を果たしていくことも期待できる。

3.3 研究の視点⑤、⑥から - コーナー保育の特性について -

3.3.1 コーナー保育とヘレン・パーカスト

筆者は、コーナー保育に関してインターネット検索を通じて、横浜市にある四恩学園ナザレ幼稚園がヘレン・パーカストの考えを取り上げ実践されていることに注目した。パーカストはドルトン・プランの提唱者として有名であり、著書『ドルトン・プランの教育』¹³⁾では学校を対象とした教育法として「自由」と「共働」の二つの原理を提唱している。我が国では自由主義の教育思想が盛んであった大正時代に、教育界における教育思想の一つの潮流として幼稚園関係者にも波及したといわれている。筆者は先行研究による文献調査を試みたが、ドルトン・プランの二つの原理とコーナー保育の理念との直接的な関係を論じた研究成果を見つけることはできなかった。しかし、次のような点について指摘できるのではないかと考えている。

ドルトン・プランの原理とされる「自由」の考え方については、コーナー保育ではコーナーを設定することによる制約はあっても、幼児自身が主体的に遊びのコーナーを選択できる自由が保障されている。また、コーナー設定は教育的意図が込められた間接的な幼児への働きかけであり、全くの自由放任的な保育ではない。もう一つの「共働」の原理は、特に年長児にとって協同的な遊びの中で自分の役割を果たし、友達との人間関係を調整していく経験が得られ、社会性の基礎を育てていくことにつながるものと考えられる。

ドルトン・プランの基本をなす二つの原理を調べて、「自由」と「共働」の原理は幼稚園における預かり保育という限定した次元でとらえるよりも、むしろ小学校以上の学校教育、あるいはナザレ幼稚園のように幼児教育の基本理念としての高い次元でとらえるべきものではないだろうか。筆者がこのように考えるに至ったのは、インターネット検索を通してナザレ幼稚園の教育理念とパーカストの教育思想をつなぐ論文「ナザレ幼稚園のコーナー保育～実践の経過と評価をめぐって～」を読み、さらにはナザレ幼稚園青葉台駅前送迎ステーションを平成26年7月に訪問して預かり保育の様子を参観させていただくとともに、瀬野哲裕園長から直接話をうかがうことができたことによるものである。また、当日いただいたパンフレット『2014年度ナザレ幼稚園の保育』¹⁴⁾には、「第1節 ナザレ幼稚園のコーナー保育」として当園のコーナー保育に対する基本的な認識が掲載されていたので、以下に抜粋して引用する。

コーナー保育に対する考え方として、「子どもたちの～①自由な選択の体験を保証して ②自由から意欲を取り出し、③生きる力（Human rights）を育てる試みです。」また、教職員の意識としては、「①子ども達が集まるには、どの様なコーナーを作れば良いか？ ②子ども達から慕われるには、どの様な先生になれば良いか？ ③教職員はコーナーを、子どもに学んで作ります。」そして、「好きで選んだコーナーだから、進んで我慢もすれば努力もします」と表現して、当園のコーナーの種類（英語、表現ぬりえ、ゲーム、伝承遊び、山遊び、空き箱制作、玉入れ、ボーリング、お茶、工作、リトミック、体操、サツ

カー、筆と遊ぼう、舞踊、読み聞かせ)が紹介されている。これらのコーナーは、園全体の教育活動として展開されていることから、預かり保育にすべてが当てはまるものではないが、子どもの興味・関心を踏まえた遊びの多様性の追求姿勢は大いに参考となるものである。

コーナー保育に関する書籍としては、『コーナーのないコーナーの保育』¹⁵⁾がある。同書で述べられているコーナー保育の歴史と理念を、筆者なりに次のようにまとめた。

- ・コーナー保育は、自由保育の象徴的役割を果たしていること。
- ・コーナー保育には、「選択の自由」・「方法の自由」・「評価の自由」の主張がみられること。
- ・コーナー保育が保育専門誌を通じて広がり始めたのは、昭和40年代であり、当時は一斉保育が保育界の主流であった中で、自由保育の考え方が普及し始めた時代と重なること。
- ・本来自由保育をしていた園では、コーナー保育という言葉は必要としていなかったこと。
- ・普及の実態として、ブームのように一斉保育の合間にコーナー遊びの時間を入れるなど、自園の保育方針を変更することなく、自由に遊ばせるという部分導入もみられたこと。
- ・コーナー保育は保育文化であり、本質的に自由保育であること。
- ・子どもの遊びがコーナーを生み出すものであり、そのことから新しいコーナーの誕生もあればコーナー消滅の限界もあること。

以上のように、著者の一人である塩川寿平が解説したコーナー保育についての認識と、パークラストが提唱した「自由」と「共働」の原理に基づく教育法との間には、時代を超えていくつかの共通した考え方がみられることがわかった。

筆者は、預かり保育における保育方法としてコーナー保育の考え方を導入することが適当と判断する考えを補強するため、倉橋惣三が著した『幼稚園真諦』の中の「幼児生活と幼稚園生活形態」¹⁶⁾の小論に手がかりを見いだした。文脈に留意しながら、参考となる倉橋の考えを以下に抜粋して引用する。

- ・「幼稚園が、幼児の生活の場として、その生活の形態が、幼児に適していなければなりません。」
- ・「幼稚園というところは、幾人かの子供が集って、その生活形態が、幼稚園であるのだとすれば、その生活形態に無理があってはなりません。」
- ・「幼稚園の真諦は、何を保育の目的とするか、いかに能力に相当させるかということを考えるだけでなくして、いかなる生活形態に幼児を生活させるのが、幼稚園の真の姿、実体であろうかということではなければならぬのであります。」
- ・「生活形態をなぜそんなに重んずるかというに、生活はその形態によってこそ、始めてその真実なる生活性を発揮し得るものであるからであります。」
- ・「幼稚園で生活形態を重んずるのは、生活を重んずるからであります。」

倉橋が主張する「生活形態」についての考えは、1日の在園時間が長くなる預かり保育利用児にとってこそ留意すべき事項である。なぜなら、幼稚園教育要領に示されている「家庭生活との連続性を図りながら幼児一人一人の実情に合った居場所づくり」¹⁷⁾という考え方にも通じるからである。

倉橋の文から、コーナー保育の方法的特性を生かした預かり保育の在り方についても、遊びの形態としての検討にとどまることなく生活形態という観点からも十分に検討を加え、教育活動としての意味付けを図っていく必要があることに気付かされる。さらに、倉橋は「幼児生活の自己充実」¹⁸⁾の中で、

幼児の生活における自発性と自由について論じている。預かり保育においても参考にしていきたいと考えられる文を一部抜粋して引用する。

- ・「少なくとも幼児教育の場合においては、教育の生活化ではなくて、むしろ生活の教育化といたいたいのです。」
- ・「幼児の生活を主とするためには、先ず幼稚園をその生活形態に重きを置いて考えるようにしなければなりません。」
- ・「幼児の生活はその子供一人ひとりの自発性を重んずるということにはなりますが、……」
- ・「幼稚園生活の形態に、いわゆる自由の要素をできるだけ多くもたせるということが先決であります」
- ・「幼児の生活が自己充実を十分発揮し得るように、適宜適切な設備をしておきつつ、しかも幼児めいめいにその設備を使わせて行く幼稚園全体の態度が、一すなわち、子供に生活の自由が充分ゆるさされているものでなければなりません。」
- ・「幼児の自由感こそ設備をよく生かしていくもとです。」

倉橋の文は、幼稚園教育全体を俯瞰して理論を展開したものであり、幼児のあるがままの生活の姿を受け入れた上で、幼稚園が主体的に変わっていくことの必要性を主張している。倉橋は、保育における環境の重要性を「設備」という表現を用いながら指摘しており、まず設備によって保育するところであるという考えを述べている。このことは、幼稚園の教育的機能としての観点からも預かり保育を教育活動としてとらえる観点からも、教師にとって意識しておかなければならない指摘事項ではないかと考えられる。

幼稚園教育要領において預かり保育では「幼児期にふさわしい無理のないもの」¹⁹⁾ という表現を用いながら、1日の流れや環境への工夫を求めている。倉橋の考え方は、「環境を通して行う」という今日の幼稚園教育の基本理念の根幹をなすものであり、預かり保育が教育課程に係る教育時間外の教育活動として位置付けられているとはいえ、当然当てはめていかなければならない考え方である。

倉橋の幼児教育に対する理論とパークスタのドルトン・プランの原理とを比較した際、倉橋の論旨の方が、預かり保育とコーナー保育との関連についての理論的根拠付けとして結び付けやすいのではないだろうか。その理由として、倉橋が主張する「生活形態」の中には、パークスタの「共働」や「自由」の考え方と共有できる要素がみられ、また幼稚園生活に重きを置いた中で幼児の自由性・自発性を尊重していることが挙げられるからである。

さらに、保育過程の実際として倉橋が著した「個の時間割」²⁰⁾ から、預かり保育の在り方を考えていく際に参考となる留意事項が述べられている。倉橋の文からは、幼児が自らの判断で主体的に時間を過ごす姿は、まさしく遊びが仕事であることを体現しているものと受け止めることができる。

- ・「幼児の生活はいろいろのことの中に盛り込まれていますから、幼児の実際にした仕事割に見なければ実際はわかりません。代替の生活の傾向は何となく知れますが、それでは充分でないから、どうしても幼児のした仕事を一々書きつけて置く必要があります。それで初めて幼児の個別的指導も方針づけられるのです。これを時間割というのが不適當なら、銘々仕事表といった方がいいかも知れません。」
- ・「その子その子の生活時間割はなくではならぬことと思われます。」

なお倉橋は、前掲の「個の時間割」の中でドルトン・プランについても幼児教育の立場から論じている。

「ドルトンプランでは、生徒各自が自分の時間割を作って持っています。それを先生が見て時間割は異なっているけれども、教育は皆同じに受けている事を認めるのであります。ところでこういうドルトンプランは中等学校においてこそよく実現することが出来ますが、幼稚園においては、そこまで幼児の自己選定ができませんから、一般には共通の組の時間割が便利だと思われれます。」

倉橋が幼稚園生活で繰り広げる幼児のそれぞれの遊びに対して教育としての自由と自発性を認めていることは、「仕事割」や「銘々仕事表」、「その子その子の生活時間割」から読み取ることができる。一方、倉橋はドルトン・プランの考え方がそのまま幼稚園現場に適用できるとは考えていないこともうかがえる。

預かり保育においてコーナー保育の方法的特性を生かす観点から倉橋の考えを取り入れようとするれば、幼児が自由にコーナーを選択して自発的に遊びを展開していく保育の方法・形態が保障され、また預かり保育担当者が一人一人の幼児を十分に把握できていて、はじめてその有用性を評価することができる。このことは高度な指導力及び評価力が教師に求められることになるが、幼稚園全体での取組として始めたいことは、預かり保育を実施する際に「仕事割」や「銘々仕事表」、「その子その子の生活時間割」の意味する教育的意義を理解した上で、自園に合った指導計画の作成と幼児の遊びや生活の記録の書き方や活用法について具体的な検討作業に入ることである。

3.3.2 実地調査－幼稚園でのコーナー保育の参観及び実践研究－

コーナー保育に関する実地調査幼稚園としては、前述のとおり名鉄学園豊田花園幼稚園と一隈学園木の実幼稚園を選定し、平成25年6月25日に豊田花園幼稚園、同年10月31日に木の実幼稚園をそれぞれ訪問し、コーナー保育の参観及び実践研究についての話をうかがった。その調査概要を記すこととする。

①豊田花園幼稚園

当園は、2013年日本保育学会第66回大会において、大学研究者との共同研究として「豊田花園幼稚園におけるコーナー保育の実践的研究」²¹⁾を発表されている。同園HPには研究内容が紹介されており、保育室の環境構成について年少・年中・年長クラスに分けて工夫した設定が行われ、園児の遊びを丁寧に記録に残しながら園児と教師と一緒にコーナーを作り上げていった過程を知ることができた。当園のコーナー保育は、園全体で教育課程や指導計画に基づいて実践されていて、園全体の既存の環境構成の見直しを図ったり、園内空間の有効活用を工夫したりするだけでなく、研究を通してコーナーを固定化せず園児の遊びに対して柔軟に環境を再構成していくことの重要性を導き出していた。

筆者が訪問した日も各コーナーでは様々な遊びが展開されており、遊びの材料等を収納してあるスペースから園児は遊びに必要な材料や用具を選択し、自由に持ち出している姿が見られた(図1)。ただし物的・人的条件が制約されている多くの幼稚園においては、当園のようなコーナー保育の実施体制を預かり保育の場に取り入れていくことの可能性について自園の実態に照らして検討していかざるを得ない。



図1 豊田花園幼稚園でのコーナー保育の様子【筆者撮影：平成25年6月25日】

②木の実幼稚園

当園の金子仁園長は、『保育内容・環境』の中で「コーナー保育における物とのかかわり」²²⁾として、次のように述べている。その一部を抜粋して引用する。

「様々な保育形態があるが、子どもたちが主体的に物とかかわることができる保育方法の一つとしてコーナー保育があげられる。コーナー保育の特徴としては保育室の中、または園舎全体に遊びのコーナーが常設されていて教材となる物や道具が常に置かれている状態であり、幼児がそこへ行けば自分の好きな遊びを行うことができるというシステムになっている。」

幼児が教師に物や道具のありかをたずねなくても、主体的かつ自由に物・道具が使えるようになっていたり、幼児の発達段階を踏まえてそれらの物や道具を定期的に検討していくことの大切さについて

て、同書の中で留意点として指摘されている。また、同園が発行しているリーフレット「木の実幼稚園での生活」²³⁾には、七つのコーナーが紹介されている。

- ・「お絵かきコーナー」・・・さまざまな大きさの画用紙に三原色の絵具やクレヨン、色鉛筆などを使って楽しい絵を描きます。優しい心が育ちます。
- ・「工作コーナー」・・・あき箱など廃材工作でいろいろなものを作ります。想像力と工夫する力が育ちます。
- ・「ブロックコーナー」・・・いろいろな種類のブロックがあります。創造性が育ちます。
- ・「木工コーナー」・・・釘やのこぎりはもちろん電動糸のこでパズルづくり。集中力や忍耐力が育ちます。
- ・「クッキーコーナー」・・・みんなで楽しくクッキーづくり。全粒粉のおいしいクッキー。粉をこねて型ぬきまで楽しく作ります。お料理大好き。
- ・「図書コーナー」・・・じゅうたんやお椅子に座って静かに絵本を読みます。絵本が大好きになります。
- ・「園庭コーナー」・・・外で思いっきり体を動かして遊びます。ツリーハウスや砂場などみんな大好き。みんなで作った手作りの家もあるよ。身体をおもいっきり動かします。

園庭コーナーを除き、各コーナーは1保育室分のスペースが確保されており、壁は設けられておらず可動式の仕切り構造であるため、互いのコーナーでの遊びの様子が幼児にも教師にもわかるように工夫されている(図2)。また、同園では縦割り保育の形態を主体とし、年長児を中心に家族的な雰囲気をお大切に、幼児の心に優しさ、あこがれ、期待感等を育む保育を行っている。

1日の生活の流れをみると、登園後、幼児たちは荷物の整理、出席シール貼りを済ませ、自分で遊びを選んでそれぞれのコーナーに行き、10:30頃まで自由に友達と遊ぶことになっている。そして、14:00の降園以降、18:00まで希望者は預かり保育を受けている。なお、当園の預かり保育については物的・人的条件が整っておらず、教師が個々の幼児の自由な遊びに関わっていくことが難しいため、コーナー保育の実施は考えていないということであった。

二つの幼稚園での保育参観及び聞き取りを通して、コーナー保育のもつ方法的特性は預かり保育においても十分に有用性を発揮できるというのが、園児たちの様子から受けた筆者の印象である。ただし、預かり保育では人的配置と部屋等のスペース確保が通常の保育と同様にならないことから、コーナー保育の方法的特性の生かし方やその効果は限定的にならざるを得ないという限界もみえてきた。





図2 木の実幼稚園でのコーナー保育の様子 [筆者撮影：平成25年10月31日]

4. まとめ

コーナー保育の方法的特性を生かした預かり保育は、主として幼児の立場からみた「連続性」が保障でき、「社会性」の基礎を育成する上でどのような有用性が期待できるかについて、相互関連に留意しながら総括的に検討し、次の4点をまとめとしたい。

第一に、コーナー設定による保育方法・保育形態を取り入れることによって、幼児にとって幼稚園での1日の生活の流れの中で遊びの選択の自由が尊重される場ができることである。預かり保育が始まっからの幼児は、自分の居場所をはっきりと意識しながら、複数のコーナーで遊んだり一つのコーナーでの遊びに没頭したりするなど、午前からの幼稚園での生活の流れに沿った目的意識の連続性が期待できる。その際、通常の保育と預かり保育では担当者が交代するケースが多く、集団の構成も変わり、また保育場所が変わり異年齢構成による遊びの種類や方法も変わることによって、幼児はかえって気持ちの切り替えがしやすくなるのではないだろうか。「ただいま」や「おかえり」のあいさつも、幼児の気持ちを切り替えさせる一つの工夫といえる。そして、コーナーを設定することによって、コーナーでどんな遊びをしたいのかを理解してくれる大人と一緒に遊びたい友達が側にいてくれることによって、精

神的に安定した時間を過ごすことができると考える。

また、預かり保育において家庭での生活や雰囲気を大切にすることの意味は、個々の家庭環境が異なり生活リズムも異なる中で、幼児にとって心身ともに安心かつ安定した自分の居場所ができることが重要であると理解すべきである。鳥取大学附属幼稚園のクッション等を置いたくつろぎコーナーの設定も一つの工夫といえる。今後、幼稚園の特性を生かした預かり保育の在り方として、教育活動としてとらえていく教育的視点と家庭的な雰囲気やくつろぐ場としての保育機能としてとらえていく養護的視点の両方の視点に立ち、一方的な偏りを避けた指導計画を検討していくことが大切である。

一方、小学校クラブ活動においても中学校部活動においても、児童生徒は学校生活の中で全くの初対面といった人間関係ではないことから、活動そのものに対する意欲や目的意識が対人関係意識よりも勝っている場合が多くみられる。この点については、特に預かり保育と小学校クラブ活動との間に近似性又は類似性が認められる。今後、預かり保育を充実させる上で、幼稚園教育要領改訂時には預かり保育の位置付けを総則の中に、あるいは新たな章立ての形で独立させることが、教育課程に係る教育時間中の活動との連続性をより強化する上で望ましいと考える。

第二に、預かり保育では教育活動の連続性・継続性の観点からPDCAサイクルを確立させたシステムが重要となる。昨日の預かり保育での遊びやその日の午前の遊びの様子から、コーナーを再構成する必要に迫られる場合も出てくるだろう。コーナー設定による保育形態を生かすためには、預かり保育のねらい及び内容、幼児の活動の流れを教師間で確認し合い、コーナーの設定変更などの引き継ぎを確かなものにしていくことが大切である。時には幼児と一緒にコーナーを作ったり変えたりすることは、すなわち幼児と一緒に遊びをつくり出す楽しさにもつながる。この点については、記録の在り方が今後の検討課題になってくる。

預かり保育におけるコーナーでの遊びは、幼児の主体性を尊重するだけでなく、幼稚園にとっても園全体の既存の環境構成の見直しや園内空間の有効活用などへの意識を高めていくことにもなる。通常の保育から預かり保育へと幼児の生活が移行することは、遊びだけでなく園生活全体としてとらえていくことが求められていることでもある。前述した倉橋の考えに学びつつ通常の保育のありようも視野に入れて預かり保育の指導計画を立てていくことが大切であることを認識しておかなければならない。

第三に、家庭での遊びと幼稚園での遊びとの連続性の観点からは、コーナー設定による保育方法・保育形態は幼児にとって家庭での遊びに近い形態や内容である場合が多いため親近感をもちやすいのではないだろうか。また親としても幼児の遊びに対する興味・関心が見えてわかりやすいため、保育参加もしやすい。例えば、遊びの中で教師がどのように幼児と関わり、認め励ましているかについて実際に言葉や態度を見聞きすることもできる。また、幼児自身の「自分でする・一人でやってみる」といった内なる意欲や、「自分でできた・一人でやれた」といった快の気持ちを大切に育てようとする教師の幼児への働きかけは、親として日頃の我が子への関わり方を振り返るヒントにもなる。幼児にとってコーナーでの遊びは、主体的に時間を過ごすことであり、成長にとって不可欠な経験として有意義である。こうした認識を親と教師双方が共有することによって、子育てとしての営みの連続性が図れ、家庭の教育力を高め補っていけることが期待できる。このことは、預かり保育が果たすべき家庭教育の補完機能に合致するものと考えられる。

第四に、社会性の基礎の育成は、預かり保育やコーナー保育の方法的特性に限定した検討よりも、幼稚園教育全体の在り方として位置付けて検討していくべき重要課題である。このことを前提として踏まえ、前述したように預かり保育は異年齢集団として編成する機会が多いことから、特に年少児にとってはコーナーでの小グループによる遊びを通して新たな人間関係の広がりやグループの一員としての意識の醸成が期待できる。また、年長児にとっても人への思いやりや協調・協力の心が育まれるものとする。

コーナーでの遊びによる保育方法は、幼児の遊びにおける自主性・主体性を育成する上で大きな機能を発揮する。コーナーでの遊び自体を優先してコーナーを選択する幼児が多い中、なかには遊びの種類よりも特定の友達と一緒に遊ぶことを優先してコーナーを選択する幼児もいるだろう。また自分が精神的に安定できる居場所やくつろげる場を求める幼児もいるだろう。こうした遊びの種類や場の選択に当たっての優先度に違いがあっても、一つのコーナーで遊びを展開することによって、特に年長児では目的協同意識が生まれる場合が多く、協同性についての意識が育つものとする。そのためにも幼稚園全体として、預かり保育と通常の保育との相互の関連と役割、あるいは差違についての理解を深め、教師間の連携を図っていくことを大切にしていきたい。

最後に、異年齢による集団構成の観点からみて、預かり保育の場で異年齢の幼児と一緒に遊ぶ経験を重ねていくことは、今日の家・地域ではできにくい経験としての意味をもつことになる。教師も含めた若い世代はともかく、一定以上の年齢の大人たちからみれば、その日いつもの場所に集まってきた者みんなで必要な材料をどこからか調達してきて工夫しながら遊んだという当たり前の経験を子ども時代にしてきている。物質的に恵まれた社会で育つ今の幼児にとって、異年齢集団で構成された環境に身を置き、自由に遊びをつくり出していく経験をさせることにもっと教師がこだわっていくことも、幼児の成長にとっても預かり保育の在り方を考えていく上でも意味のあることではないだろうか。

5. おわりに

冒頭に述べたように筆者の問題意識は、コーナー保育の方法的特性を生かした預かり保育が家庭教育の補完機能を発揮するとともに、幼児の社会性の基礎を育むという二つの目的達成につながるものであるかどうかについてであった。そのための具体的検討事項として、保育環境からみた家庭的な雰囲気づくり方、幼児の遊びに対する選択の自由の保障、保育方法・保育形態からみた有用性、親の子育て力向上への寄与等の観点から、その可能性と限界について考察してきた。もとより本稿は、検証実践前の仮説の域を出ていないものであり結論付けられるものではないが、幼稚園の特性を生かした預かり保育として有効な手立ての一つになり得るものと考えている。

今後、預かり保育の場にコーナー設定による保育方法・保育形態を導入することによって、どのような有用性と限界が具体的に認められるのかについて検証・評価していかなければならない。そのためには通常の保育において作成されている長期・短期の指導計画に当たる「預かり保育の実施プログラム」をモデルとして作成するとともに、預かり保育を実施している幼稚園に試行実践のための研究協力園として依頼し、実践結果をもとに考察を深めていきたいと考えている。

6. 謝辞

本研究に当たり、名鉄学園豊田花園幼稚園長近田千佳子氏及び前園長松元貴子氏、一隅学園木の実幼稚園長金子仁氏、四恩学園ナザレ幼稚園長瀬野哲裕氏、鳥取大学附属幼稚園長森信寛氏をはじめ各幼稚園の先生方には、快く保育参観をさせていただき、数多くの資料提供やご教示をいただきました。また本稿作成に当たっても、コーナー保育に関する貴重な実践事例や論文・卒業論文からの引用、写真及び資料の掲載許可をいただきましたことに、ここに記して感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 (2013) 平成24年度幼児教育実態調査：
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/08081203.htm.
- 2) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領：P11.
- 3) 奈良県教育委員会 (2003) 社会性の基礎をはぐくむ～事例から考える保育の視点～：P6. 奈良県立教育研究所.
- 4) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領：P20.
- 5) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説：P233. フレーベル館.
- 6) 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領：P19. 東山書房.
- 7) 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領：P113.
- 8) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説：P233-238. フレーベル館.
- 9) 厚生労働省 (2011) 保育所保育指針解説書：P26-27. フレーベル館.
- 10) 厚生労働省 (2011) 保育所保育指針解説書：P25. フレーベル館.
- 11) 福田美紀 (2013) 預かり保育の場における家庭的な雰囲気づくりに関する一考察—鳥取大学附属幼稚園でのくつろぎコーナー設置に着目して—：P1-127. 鳥取大学平成22年度入学地域学部地域教育学科卒業論文.
- 12) 横山昌子 (2013) 附幼だより：P1. 鳥取大学附属幼稚園.
- 13) ヘレン・パーカスト 赤井米吉・中野光訳 (1982) ドルトン・プランの教育 (世界教育学選集80)：P27-38. 明治図書出版.
- 14) 四恩学園 (2014) 2014年度ナザレ幼稚園の保育：P8-9. 同園パンフレット.
- 15) 塩川寿平・京極寿満子・塩川寿々子 (1987) コーナーのないコーナーの保育：P46-65. フレーベル館.
- 16) 倉橋惣三 (1985) 倉橋惣三選集第一巻：P19-34. フレーベル館.
- 17) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説：P233. フレーベル館.
- 18) 倉橋惣三 (1985) 倉橋惣三選集第一巻：P30-34. フレーベル館.
- 19) 文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領：P22.
- 20) 倉橋惣三 (1985) 倉橋惣三選集第一巻：P103-105. フレーベル館.
- 21) 松元貴子・宍戸健夫・丹羽孝・上田敏丈・千田隆弘・川喜田奈保 (2013) 豊田花園幼稚園におけるコーナー保育の実践的研究. 日本保育学会第66回大会発表. 名鉄学園豊田花園幼稚園 HP. www.sun-inet.or.jp/~toyohana/tokusyoku/gakkail.pdf.
- 22) 無藤隆・中坪史典・後藤範子 (2013) 保育内容・環境：P56-62. 大学図書出版.
- 23) 一隅学園木の実幼稚園 木の実幼稚園での生活. 同園リーフレット.

参考文献

- 1) 四恩学園ナザレ幼稚園 HP.<http://academic1.plala.or.jp/youchien/>.
- 2) ナザレ幼稚園 瀬野哲裕・村田恵美子・森田玲世・聖セシリア女子短期大学小林育子（1997）ナザレ幼稚園のコーナー
保育～実践の経過と評価をめぐって～ 日本保育学会大会論文集（50）：P884－885.
- 3) 一隅学園木の実幼稚園 HP.<http://www.konomi-kinder.info/corner.html>.